

母親と父親の養育態度と精神的健康， 学校適応感との関連

— 小学5年生から中学3年生を対象として —

渡邊 賢二（皇學館大学教育学部）

原田あいか（桑名市立大山田東小学校）

服部 直美（鈴鹿市立平田野中学校）

〈要旨〉本研究は，小学5年生から中学3年生を対象に，子どもの性別によって，母親と父親の養育態度の差異を検討した。また，母親と父親の養育態度が子ども精神的健康に，子どもの精神的健康が学校適応感にどの程度影響を及ぼすのか検討した。男子より女子の方が母親と父親の養育態度を良好であると認知していた。また子どもは父親より母親の養育態度が良好であると認知していた。母親と父親の理解尊重スキル，母親の道徳性スキルは精神的健康に影響を及ぼし，精神的健康は学校適応感に影響を及ぼしていた。子どもの性別によって，養育態度の差異が認められた。また母親と父親の養育態度が子どもの精神的健康への影響については相違が認められた。

〈キーワード〉養育態度，両親，精神的健康，学校適応感

問題と目的

児童期から青年期の親子関係は子どもの心身の発達に伴って，変化している（Laursen & Collins, 2009; Smetana & Rote, 2019; 渡邊・平石・谷, 2020）。村上（2011）は小学生高学年から中学生になると，母親は子どもと一緒にいる時間，子どもと話す時間が減少し，子どもの自立が進むにつれて，親子関係が変化すると報告している。Steinberg & Silk（2002）は，子どもの心身の発達に伴って，親との葛藤や自律性の問題が顕在化してくるが，子どもの適応には親の養育態度が重要であると述べている。また，Niehaus, Chaplin, Turpyn, & Goncalvas（2019）は，親の養育態度と親子関係は，子どもの心理社会的発達に影響を与えていると報告している。これらより，小学生高学年から中学生にかけて，子どもの適応感を維持させるためには，親の養育態度は重要であると言えよう。

これまでに，親の養育態度と子どもの適応感との関連についての研究は，欧米では数多く行われてきている。Zhang, Pan, Chen, Liu, Wang, & Jean（2021）は，7年生と9年生を対象に質問紙調査を行い，ポジティブな親子関係は子どもの抑うつを軽減すると述べている。また，Hale, I, Van, Akse, & Meeus（2008）, McLeod, Weisz, & Wood（2007）, Nelemans Hale, Branje, Hawk, & Meeus（2014）, Rudolph（2009）も，青年期の親子関係は，子どもの抑うつと強く関連していると報告している。さらに，Cui, Morris, Criss, Houlberg, & Silk（2014）は10歳から18歳の子どもと親を対象として調査を行い，親の心理的な統制の養育態度は，子どもの攻撃的な行動や抑うつに影響を及ぼすと述べている。これらより，児童期後期から青年期の子どもの精神的健康には，良好な親子関係が重要であると言えるだろう。先述したように，欧米では児童期後期から青年期の親子関係と子どもの精神的健康との関連の研究は数多く行われてきているが，我が国においては，あまり行われていない。我が国でも，親子関係，親の養育態度と子どもの精神的健康との関連について検討する必要があるだろう。

次に，精神的健康と学校適応感との関連について述べる。西村・藤原・村

上・福住（2022）は，中学生を対象に調査を行い，抑うつと学校生活満足度との間には負の関連があると述べている。嶋田・岡安・坂野（1992）は小学3年生と6年生を対象に調査を行い，学校ストレッサーは学校ストレス耐性に影響を及ぼし，学校ストレス耐性は学習意欲に影響を及ぼすと報告している。堀川・吉田・小宮山・門倉・齋藤・野中・嶋田（2018）は小学生と中学生に調査を行い，社会的スキルがストレス反応に影響を及ぼし，ストレス反応が学校適応感に影響を及ぼすと述べている。また大学生を対象とした研究ではあるが，精神的健康と学校生活満足感との間には関連があることも指摘されている（武蔵・箭本・品田・河村，2012）。これらより，精神的健康は学校適応感に影響を及ぼすと考えられる。

これまでの親子関係の研究は，子どもの主たる養育者が母親であるため，母子関係の研究が数多く行われてきた（渡邊・平石・谷，2020; Niehaus, Chaplin, Turpyn, & Goncalvas, 2019）。しかし，家族構成は多様であり，母親と男子（息子），母親と女子（娘），父親と男子（息子），父親と女子（娘）の親子関係が存在する家族もある。青年期の子どもにとって，母子関係だけでなく，父子関係も子どもの発達に影響を及ぼすことが指摘されている（Moller, Nikolic, Majdandzic, & Bogels, 2016; Paquette, Coyl-Shepherd, & Newland, 2013）。また，Van Lissa, Keizer, Van Lier, Meeus, & Branje（2019）やCortes-Garcia, Wichstrom, Viddal, & Senra（2019）は，父子関係より母子関係の方が，子どもに対して影響が強いと述べている。さらに，子どもの性別によって，親子関係の質や親の養育態度が子どもに及ぼす影響に相違があることも報告されている（Liu, Wei, Ling, Hueber, Zeng, Yang, 2020; Rueger, Chen, Jenkins, & Choe, 2014）。これらより，我が国において，母親と父親の養育態度を男子（息子）と女子（娘）はどの程度認知しているのか検討する必要があるだろう。

以上の問題意識より，児童期後期から青年期前期の子どもを対象として，第1に，男子（息子）と母親，女子（娘）と母親，男子（息子）と父親，女子（娘）と父親の4パターンにおいて，男子（息子）と女子（娘）は母親と父親の養育態度をどの程度認知しているのか差異を検討する。第2に，母親と父親の養育態度が子どもの精神的健康に影響を及ぼし，子どもの精神的健康が学校

母親と父親の養育態度と精神的健康，学校適応感との関連（渡邊・原田・服部）
適応感に影響を及ぼすというモデルを子どもの性別により検討する（Figure1）。

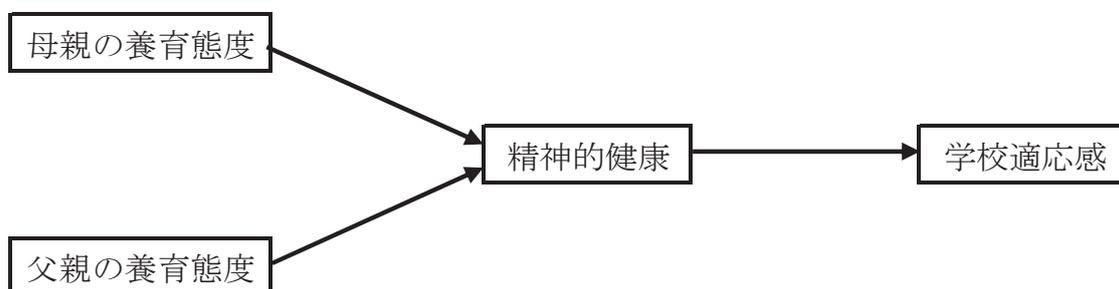


Figure1 母親と父親の養育態度と精神的健康，学校適応感との関連モデル

方 法

1. 調査対象者

三重県内の小学校2校と中学校2校に在籍する小学生と中学生を対象に，質問紙調査を実施した。母親と父親に対する質問項目に回答した559人を調査対象者とした。内訳は，小学5年生62人（男子32人，女子30人），小学6年生69人（男子36人，女子32人，不明1人），中学1年生166人（男子87人，女子79人）中学2年生95人（男子36人，女子55人，不明4人），中学3年生167人（男子81人，女子85人，不明1人）であった。

2. 手続きと倫理的配慮

担任教諭に教示文を渡し以下の点を依頼した。①児童・生徒に質問紙がはいった封筒を配布し，保護者に渡すこと。②回答は児童・生徒に家庭で実施し，終了したら担任教諭に提出すること。

調査表には，フェイスシートにプライバシー保護，回答の自由，学校の成績には関係がないことについて明記し，参加に同意する場合のみ質問に回答することと，子どもは保護者の同意を得てから，回答するように記述した。なお，本研究は研究倫理委員会が審査を行い，承認されている。

3. 調査内容

(1) 基本的属性：年齢，学年，性別を尋ねた。

(2) 養育態度尺度：渡邊・平石・谷（2020）が作成した子ども用の養育スキル尺度16項目を用いた。「1まったくあてはまらない」～「5非常にあてはまる」の5段階評価（1点～5点）で回答を求めた。理解尊重スキル10項目，道徳性スキル6項目から構成されている。理解尊重スキルとは，「子どもに肯定的なメッセージや自立・成長を促進する態度を示したり，コミュニケーションを用いて子どもに対する理解を深める態度を示す」と言われている。道徳性スキルとは，「子どもに日常生活における規範，慣習，生活態度を教示している」と言われている。また内海（2013）が作成した養育尺度の中から，心理的統制の項目6項目を用いた。「1まったくあてはまらない」～「5非常にあてはまる」の5段階評価（1点～5点）で回答を求めた。

(3) 精神的健康尺度：WHO-Five Well-Being Index (WHO-5) を用いた。WHO-5は世界保健機構（WHO）により簡素な精神的健康の指標として開発され，使用が推奨されている（岩佐・権藤・増井・稲垣・河合・大塚・小川・高山・蘭牟田・鈴木，2007）。日本語版はAwata, Bech, Koizumi, Seki, Kuriyama, Hozawa, Ohmori, Nakaya, Matsuoka, & Tsuji（2007），Awata, Bech, Yoshida, Hirai, Suzuki, Yamashita, Ohara, Hinokio, Matsuoka, & Oka（2007）により，原版（英語版）との透過性の確認並びに，標準化が行われている。本研究は邦訳した5項目を用いた。最近，2週間の状態に最も近いものを「1まったくない～5いつも」の5段階評価（1点～5点）で回答を求めた。得点が高いほど，精神的健康状態が高いことを示す。

(4) 学校適応感尺度：石田（2009）が作成した学校適応感尺度を用いた。「1まったくあてはまらない」～「5非常にあてはまる」の5段階評価（1点～5点）で回答を求めた。友人関係3項目，学習関係3項目，学校全体3項目，教師関係3項目を用いた。得点が高いほど，学校適応感が高いことを示す。

結 果

1. 各尺度の平均値（SD）と信頼性係数（ α 係数）

各尺度の平均値（SD）と信頼性係数（ α ）を算出した。母親の理解尊重スキルの平均値（SD）と信頼性係数（ α ）は4.18（.71）， $\alpha = .84$ ，母親の道徳性スキルは4.62（.51）， $\alpha = .81$ ，母親の心理的統制は1.84（.86）， $\alpha = .86$ ，父親の理解尊重スキルは3.92（.84）， $\alpha = .85$ ，父親の道徳性スキルは4.39（.75）， $\alpha = .88$ ，父親の心理的統制は1.76（.94）， $\alpha = .91$ であった。精神的健康の平均値（SD）と信頼性係数（ α ）は，4.40（1.18）， $\alpha = .86$ ，学校適応感の友人関係は4.37（.82）， $\alpha = .84$ ，学習関係は3.81（.96）， $\alpha = .88$ ，学校全体は3.76（1.00）， $\alpha = .88$ ，教師関係は3.83（.99）， $\alpha = .87$ であった。

2. 子ども（男子・女子）による母親と父親の養育態度の比較

子ども（男子，女子）は母親と父親の養育態度をどの程度認知しているのか，男子と母親，女子と母親，男子と父親，女子と父親の4パターンについての差異を検討するために，一要因分散分析を実施した（Table1）。その結果，理解尊重スキルについて，女子と父親より女子と母親の方が有意に高い得点を示した。また，男子と父親，男子と母親，女子と母親の順で有意に高い得点を示した。道徳性スキルについて，男子と父親より男子と母親の方が，男子と父親，女子と父親より女子と母親の方が有意に高い得点を示した。心理的統制について，女子と母親，女子と父親より男子と母親，男子と父親の方が有意に高い得点を示した。

Table1 子どもの性別（息子・娘）による母親と父親の養育態度の比較

	①男子-母親	②女子-母親	③男子-父親	④女子-父親	F値	
理解尊重スキル	4.09	4.27	3.85	4.00	14.45 ***	②>④，②>①>③
SD	.73	.67	.88	.80		$\eta_p^2 = .03$
道徳性スキル	4.58	4.68	4.34	4.44	14.57 ***	①>③，②>③④
SD	.54	.48	.81	.69		$\eta_p^2 = .02$
心理的統制	2.02	1.67	1.87	1.65	10.34 ***	①③>②④
SD	.91	.79	.99	.89		$\eta_p^2 = .03$

***: $p < .001$

3. 母親と父親の養育態度と精神的健康，学校適応感との関連

子どもの性別による母親と父親の養育態度と精神的健康，学校適応感との関連を検討するために，ピアソンの積率相関係数を求めた（Table 2-1, 2-2）。その結果，男子について，母親の理解尊重スキル，道徳性スキルと父親の理解尊重スキル，道徳性スキルとの間には有意な正の相関関係，父親の心理的統制との間には有意な負の相関関係が認められた。母親の心理的統制と父親の理解尊重スキル，道徳性スキルとの間には有意な負の相関関係，父親の心理的統制との間には有意な正の相関関係が認められた。精神的健康と母親，父親の理解尊重スキル，道徳性スキルとの間には有意な正の相関関係が認められた。友人関係と母親，父親の理解尊重スキル，道徳性スキル，友人関係との間には有意な正の相関関係，心理的統制との間には有意な負の相関関係が認められた。学習関係，学校全体，教師関係と母親，父親の理解尊重スキル，道徳性スキル，精神的健康との間には有意な正の相関関係，母親，父親の心理的統制との間には有意な負の相関関係が認められた。

女子について，母親の理解尊重スキル，道徳性スキルと父親の理解尊重スキル，道徳性スキルとの間には有意な正の相関関係，父親の心理的統制との間には有意な負の相関関係が認められた。母親の心理的統制と父親の理解尊重スキル，道徳性スキルとの間には有意な負の相関関係，父親の心理的統制との間には有意な正の相関関係が認められた。精神的健康と母親，父親の理解尊重スキル，道徳性スキルとの間には有意な正の相関関係が認められた。友人関係，学校全体と母親，父親の理解尊重スキル，道徳性スキル，友人関係との間には有意な正の相関関係が認められた。学習関係，教師関係と母親，父親の理解尊重スキル，道徳性スキル，精神的健康との間には有意な正の相関関係，母親，父親の心理的統制との間には有意な負の相関関係が認められた。

母親と父親の養育態度と精神的健康，学校適応感との関連（渡邊・原田・服部）

Table2-1 母親と父親の養育態度と精神的健康，学校適応感の相関関係（男子：息子）

	父親・理解 尊重スキル	父親・道徳 性スキル	父親・心理 的統制	精神的 健康	友人 関係	学習 関係	学校 全体	教師 関係
母親・理解尊重スキル	.61 ***	.50 ***	-.21 **	.45 ***	.21 **	.38 ***	.39 ***	.34 ***
母親・道徳性スキル	.41 ***	.53 ***	-.22 **	.37 ***	.29 ***	.40 ***	.42 ***	.39 ***
母親・心理的統制	-.22 ***	-.20 **	.63 ***	.01	-.09	-.16 *	-.13 *	-.17 **
父親・理解尊重スキル				.49 ***	.19 **	.41 ***	.36 ***	.41 ***
父親・道徳性スキル				.36 ***	.24 ***	.36 ***	.35 ***	.35 ***
父親・心理的統制				-.10	-.13 *	-.20 **	-.14 *	-.19 **
精神的健康					.35 ***	.49 ***	.44 ***	.46 ***

***:p<.001, **:p<.01, *:p<.05

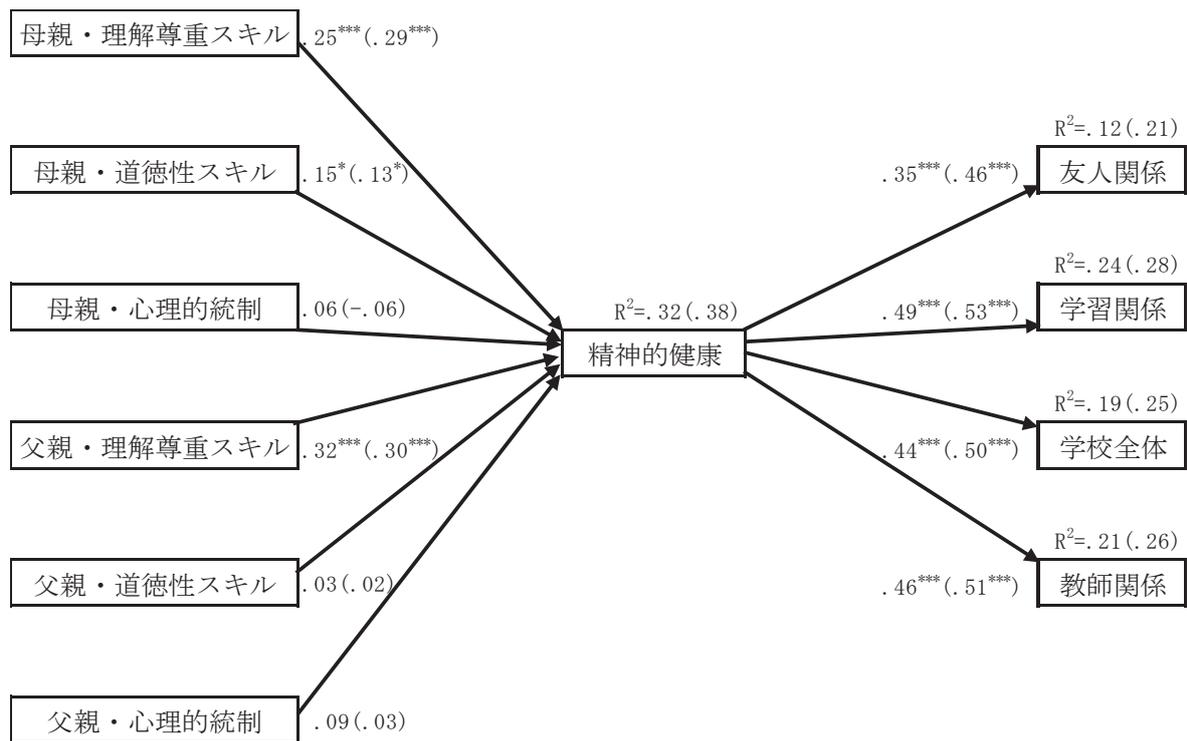
Table2-2 母親と父親の養育態度と精神的健康，学校適応感の相関関係（女子：娘）

	父親・理解 尊重スキル	父親・道徳 性スキル	父親・心理 的統制	精神的 健康	友人 関係	学習 関係	学校 全体	教師 関係
母親・理解尊重スキル	.57 ***	.33 ***	-.32 ***	.55 ***	.29 ***	.35 ***	.34 ***	.37 ***
母親・道徳性スキル	.28 ***	.41 ***	-.14 *	.37 ***	.27 ***	.33 ***	.40 ***	.21 ***
母親・心理的統制	-.31 ***	-.18 **	.69 ***	-.27 ***	-.04	-.14 *	-.11	-.14 **
父親・理解尊重スキル				.52 ***	-.23 ***	.34 ***	.32 ***	.29 ***
父親・道徳性スキル				.36 ***	.12 *	.26 ***	.28 ***	.17 **
父親・心理的統制				-.23 ***	-.06	-.14 *	-.10	-.15 *
精神的健康					.46 ***	.53 ***	.50 ***	.51 ***

***:p<.001, **:p<.01, *:p<.05

一要因分散分析の結果や先行研究（渡邊・平石・谷，2020など）より，親の養育態度については，子どもの性別により差異があることが示された。これらの結果を踏まえて，Figure1のモデルを明らかにするために，子どもの性別による多母集団同時分析を実施した（Figure2）。モデルの適合度は， $\chi^2=104.33$ （ $p<.001$ ）， $df=48$ ， $GFI=.980$ ， $CFI=.968$ ， $RMSEA=.046$ であった。適合度指標について，CFIは1.00に近いほど，RMSEAは.00に近いほどデータとモデルの適合度が望ましいと言われており（豊田，1998），十分な値を示しているといえる。男女とも，母親と父親の理解尊重スキルから精神的健康に有意な正のパス（ $p<.001$ ， $p<.001$ ），母親の道徳性スキル（ $p<.05$ ， $p<.05$ ）からも精神的健康に有意な正のパスが認められた。男女とも，精神的健康から友人関係，学習関係，学校全体，教師関係（すべて $p<.001$ ）に有意な正のパスが認められた。

母親と父親の養育態度と精神的健康，学校適応感との関連（渡邊・原田・服部）



***: $p < .001$, *: $p < .05$

共分散，誤差相関は省略

男子（女子）

Figure2 母親と父親の養育態度と精神的健康，学校適応感との関連

考 察

1. 子どもの性別（息子・娘）による母親と父親の養育態度の比較

子どもの性別による母親と父親の養育態度をどの程度認知しているのか，男子と母親，女子と母親，男子と父親，女子と父親の4パターンについての差異を検討するために，一要因分散分析を実施した結果，理解尊重スキルについては，女子と父親より女子と母親，男子と父親，男子と母親，女子と母親の順で高い得点を示した。これらより，女子は父親より母親の方が肯定的なメッセージや自立・成長を促進する態度を示したり，コミュニケーションを用いて理解を深める態度を示していると認知していると考えられる。また，男子より女子の方が親は肯定的なメッセージや自立・成長を促進する態度を示したり，コミュニケーションを用いて理解を深める態度を示していると認知していると思われる。道徳性スキルについては，男子と父親より男子と母親，男子と父親，

母親と父親の養育態度と精神的健康，学校適応感との関連（渡邊・原田・服部）

女子と父親より女子と母親の方が高い得点を示した。これらより，男女とも父親より女子の母親の方が，日常生活における規範，慣習，生活態度を教示していると認知していると推察できる。心理的統制については，女子と母親，女子と父親より男子と母親，男子と父親の方が高い得点を示した。これらより，女子より男子の方が母親と父親は心理的にコントロールしている言葉や行動が多いと認知していると考えられる。Stanik, Riina, & McHale (2013) は，子どもの性別に関わらず父親より母親の養育態度の温かさを認知していると報告している。養育スキルは，思春期の子どもとの良好な関係性を構築・維持することを考慮に入れた親の養育態度であり，温かさを示す態度も含まれていると思われるため，本研究と類似した結果になったと考えられる。しかし，Stanik, Riina, & McHale (2013) は，男女については差異があったことを報告していないため，本研究結果と相違があると思われる。また，Mandara, Murray, & Joyner (2005) は，母親は娘より息子に温かさを示すと述べている。Stanik, Riina, & McHale (2013) は，文化的な背景によって，親子関係には相違があることを指摘していることより，本研究結果とは相違が認められたとも考えられる。今後は我が国においても性別による親子関係の研究を積み重ねていく必要があるだろう。

2. 母親と父親の養育態度と精神的健康，学校適応感との関連

母親の理解尊重スキルと道徳性スキル，父親の理解尊重スキルから精神的健康に有意な正のパスが認められた。精神的健康から学校適応感である友人関係，学習関係，学校全体，教師関係に有意な正のパスが認められた。これらより，母親と父親が肯定的なメッセージや自立・成長を促進する態度を示したり，コミュニケーションを用いて理解を深める態度を示していること，母親が日常生活における規範，慣習，生活態度を教示していることは子どもの精神的健康に良い影響を与えることが明らかになった。Bynum & Kotchick (2006) は母親との温かい関係は子どもの自尊感情を向上させ，抑うつを緩和させると報告している。また，Zhang, Pan, Chen, Liu, Wang, & Jean (2021) はポジティブな両親と子どもとの関係は青年期前期の子どもの抑うつを軽減すると述

べている。本研究では，母親と父親の理解尊重スキルは子どもの精神的健康に良い影響を与えているという結果であり，類似した結果と推察される。母親の道徳性スキルが子どもの精神的健康に良い影響を与えており，母親が子どもに対して，日常的な生活態度を教えることも精神的には良い影響を及ぼすと推察される。父親より母親との関係が青年の情緒的な表出に影響を及ぼしたり（Van Lissa, Keizer, Van Lier, Meeus, & Branje, 2019），父親より母親との関係が青年の抑うつに強く影響を及ぼす（Cortes-Garcia, Wichstrom, Viddal, & Senra, 2019）と言われていることから，このような結果になったと思われる。母親の養育態度と父親の養育態度における子どもへの影響には相違が認められたことが明らかになった。母親と父親の心理的統制から精神的健康には，有意な影響は認められなかった。しかし，Cui, Morris, Criss, Houlberg, & Silk（2014）は親の心理的統制は子どもの抑うつを予測すると述べていることから，縦断調査や面接調査を用いて詳細に検討する必要があるだろう。

精神的健康が学校適応感である友人関係，学習関係，学校全体，教師関係に有意な正のパスが認められた。嶋田・岡安・坂野（1992）は学校ストレス耐性には学習意欲に影響を及ぼしていること，西村・藤原・村上・福住（2022）は，抑うつと学校生活満足度との間には負の関連があると報告している。本研究においても，精神的な健康が学校適応感，学校生活を有意義に過ごすことに影響を及ぼしていると言えるだろう。これらの結果より，小学5年生から中学3年生の学校適応感や精神的健康には，母親と父親が肯定的なメッセージや自立・成長を促進する態度を示したり，コミュニケーションを用いて理解を深める態度を示すことが重要であると言えよう。

まとめ

本研究は，小学5年生から中学3年生を対象に，子どもの性別によって，母親と父親の養育態度の差異を検討した。また，母親と父親の養育態度が子ども精神的健康に，子どもの精神的健康が学校適応感にどの程度影響を及ぼすのか検討した。男子より女子の方が母親と父親の養育態度を良好であると認知していた。また子どもは父親より母親の養育態度が良好であると認知していた。母

母親と父親の養育態度と精神的健康，学校適応感との関連（渡邊・原田・服部）

親と父親の理解尊重スキル，母親の道徳性スキルは精神的健康に影響を及ぼし，精神的健康は学校適応感に影響を及ぼしていた。母親と父親の養育態度の子どもへの影響度は相違が認められた。文化的背景により，親子関係は相違があると言われており（Stanik, Riina, & McHale, 2013），欧米で実施された研究結果とは相違が認められた。今後，我が国でも継続的に児童期から青年期の親子関係の研究を行っていく必要があるだろう。

文 献

- Awata, S., Bech, P., Koizumi, Y., Seki, T., Kuriyama, S., Hozawa, A., Ohmori, K., Nakaya, N., Matsuoka, H., & Tsuji, I. (2007). Validity and utility of the Japanese version of the WHO-Five Well-Being Index in the context of detecting suicidal ideation in elderly community residents. *International Psychogeriatrics, 19*, 77-88.
- Awata, S., Bech, P., Yoshida, S., Hirai, M., Suzuki, S., Yamashita, M., Ohara, A., Hinokio, Y., Matsuoka, H., & Oka, Y. (2007). Reliability and validity of the Japanese version of the World Health Organization-Five Well-Being Index in the context of detecting depression in diabetic patients. *Psychiatry and Clinical Neurosciences, 61*, 112-119.
- Bynum, M. A., & Kotchick, B. A. (2006). Mother-adolescent relationship quality and autonomy as predictors of psychological adjustment among African American adolescents. *Journal of Child and Family Studies, 15*, 529-542.
- Cortes-Garcia, L., Wichstrom, L., Viddal, K. R., & Senra, C. (2019). Prospective bidirectional associations between attachment and depressive symptoms from middle childhood to adolescence. *Journal of Youth and Adolescence, 48*, 2099-2113.
- Cui, L., Morris, A. S., Criss, M. M., Houlberg, B. J., & Silk, J. S. (2014). Parental psychological control and adolescent adjustment: the role of adolescent emotion regulation. *Parenting: science and practice, 14*, 47-67.

母親と父親の養育態度と精神的健康, 学校適応感との関連 (渡邊・原田・服部)

- Hale, W. W., I. I. I., Van der Valk, I. Akse, J., & Meeus, W. H. J. (2008). The interplay of early adolescent depressed mood, aggressive behavior and perceived paternal rejection: A four year longitudinal community study. *Journal of Youth and Adolescence*, 37, 928-940.
- 堀川 柚・吉田 遥菜・小宮 山尚・門倉 愛・齋藤 彩乃・野中 俊介・嶋田 洋徳 (2018). 児童生徒における社会的スキルとストレスの程度が学校適応感に及ぼす影響 日本認知・行動療法学会第44回大会論文集, 274.
- 石田 靖彦 (2009). 学校適応感尺度の作成と信頼性, 妥当性の検討 - 生徒評定と教師評定を用いた他特性 - 他方法相関行列からの検討 - 愛知教育大学教育実践総合センター紀要, 12, 287-292.
- 岩佐 一・権藤 恭之・増井 幸恵・稲垣 宏樹・河合 千恵子・大塚 理加・小川 まどか・高山 緑・蘭 牟田 洋美・鈴木 隆雄. (2007). 日本語版「WHO-5 精神的健康状態表」の信頼性ならびに妥当性: 地域高齢者を対象とした検討 厚生の指標, 54, 48-55.
- Laursen, B. & Collins, W. A. (2009). Parent-child relationships during adolescence. In *Handbook of Adolescence Psychology, Vol. 2: Contextual Influences on Adolescent Development*, ed. R. M. Lerner, L. Steinberg, pp. 3-42. New York: Wiley.
- Liu, C., Wei, Y., Ling, Y., Hueber, E. S., Zeng, Y., & Yang, Q. (2020). Identifying trajectories of Chinese high school students' depressive symptoms: An application of latent growth mixture modeling. *Applied Research in Quality of Life*, 15, 775-789.
- Mandara, J., Murray, C. B., & Joyner, T. N. (2005). The impact of fathers' absence on American adolescents' gender role development. *Sex Roles*, 53, 207-220.
- McLeod, B. D., Weisz, J. P., & Wood, J. J. (2007). Examining the association between parenting and childhood depression: A meta-analysis. *Clinical Psychology Review*, 27, 986-1003.
- Moller, E. L., Nikolic, M., Majdandzic, M., & Bogels, S. M. (2016). Associations between maternal and paternal parenting behavior, anxiety and its

母親と父親の養育態度と精神的健康, 学校適応感との関連 (渡邊・原田・服部)

precursors in early childhood: A meta-analysis. *Clinical Psychology Review*, 45, 17-33.

村上達也 (2011). 子どもの学年段階別による母親の子育て意識とその実態
第4回子育て生活基本調査 (小中版) (pp109-119) ベネッセ教育総合研究
所.

武蔵由佳・箭本佳己・品田笑子・河村茂雄 (2012). 大学生における学校生活
満足感と精神的健康との関連の検討 *カウンセリング研究*, 45, 165-174.

Nelemans, S. A., Hale, W. W., Branje, S. J. T., Hawk, S. T., & Meeus, W. H. J. (2014). Maternal criticism and adolescent depressive and generalized anxiety disorder symptoms: A 6-year longitudinal community study. *Journal of Abnormal Child Psychology*, 42, 755-766.

Niehaus, S. A., Chaplin, T. M., Turpyn, C. C., & Goncalvas, S. F. (2019). Maternal emotional and physiological reactivity: Implications for parenting and the parenting-adolescent relationship. *Journal of Children Family Study*, 28, 1-20.

西村多久磨・藤原和久・村上達也・福住紀明 (2022). 中学生のソーシャルスキルと学校適応問題－学校生活満足度, 自尊感情, 抑うつ, 攻撃性との問題－
心理学研究, 93, 161-167.

Paquette, D., Coyl-Shepherd, D. D., & Newland, L. A. (2013). Fathers and development: New areas for exploration. *Early Child Development and Care*, 183, 735-745.

Rudolph, K. D. (2009). The interpersonal context of adolescent depression. In S. Nolen-Hoeksema & L. Hilt (Eds.), *Handbook of depression in adolescence* (pp. 377-418). New York, NY: Routledge.

Rueger, S. Y., Chen, P., Jenkins, L. N., & Choe, H. J. (2014). Effects of perceived support from mothers, fathers, and teachers on depressive symptoms during the transition to middle school. *Journal of Youth and Adolescence*, 43, 655-670.

嶋田洋徳・岡安孝弘・坂野雄二 (1992). 児童の心理的ストレスと学習意欲との関連 *健康心理学研究*, 5, 7-19.

母親と父親の養育態度と精神的健康，学校適応感との関連（渡邊・原田・服部）

- Smetana, J. G. & Rote, W. W. (2019). Adolescent-parent relationships: progress, processes, and prospects. *Annual Review of Developmental Psychology, Vol. 1*, 41-68.
- Stanik, C. E., Riina, E. M., & McHale, S. M. (2013). Parent-adolescent relationship qualities and adolescent adjustment in two-parent African American families. *Family Relations, 62*, 597-608.
- Steinberg, L., & Silk, J. (2002). Parenting adolescents. In M. Bornstein (Ed.), *Handbook of parenting: Volume 1. Children and Parenting* (2nd ed., pp.103-133). Mahwah, NJ : Erlbaum.
- 豊田秀樹 (1998). 共分散構造分析 (入門編) : 構造方程式モデリング 朝倉書店.
- 内海緒香 (2013). 青年期養育尺度 (PAS) の作成 心理学研究, 84, 238-246.
- Van Lissa, C. J., Keizer, R., Van Lier, P. A. C., Meeus, W. H. J., & Branje, S. (2019). The role of fathers' versus mothers' parenting in emotion-regulation development from mid-late adolescence: Disentangling between-family differences from within-family effects. *Developmental Psychology, 55*, 377-389.
- 渡邊賢二・平石賢二・谷伊織 (2020). 児童期後期から青年期前期の子どもと母親が認知する養育スキルと母子相互信頼感，子どもの心理的適応との関連 - 母子ペアデータによる検討 - 発達心理学研究, 31, 1-11.
- Zhang, Q., Pan, Y., Chen, Y., Liu, W., Wang, L., & Jean, J. A. (2021). Effects of father-adolescent and mother-adolescent relationships on depressive symptoms among Chinese early adolescents. *Applied Research in Quality on Life*, 1-16.

付記

第2著者が卒業論文で用いたデータを一部使用しています。調査にご協力をしていただいた小学生，中学生とその学校関係者の皆さまに感謝を申し上げます。

母親と父親の養育態度と精神的健康, 学校適応感との関連 (渡邊・原田・服部)

Examining relationships between mother and father parenting attitude,
well-being, and school adjustment
– students from the fifth grade of elementary school
to the third grade of junior high school –

Kenji Watanabe (Education Department, Kogakkan University)

Aika Harada (Ohyamadahigashi Elementary School in Kuwana city)

Naomi Hattori (Hiratano Junior High School in Suzuka city)

Abstract

The purpose of this study was to investigate the difference of parenting attitude among boys-mothers, girls-mothers, boys-fathers, and girls-fathers. It also investigated whether the parenting attitude of mothers and fathers predicted well-being, and well-being predicted school adjustment by using a questionnaire to students from the fifth grade of elementary school to the third grade of junior high school. As to understanding-respect skills, girls-mothers scored higher than girls-fathers. Also understanding-respect skills were in the order of higher scores girls-mothers, boys-mothers, boys-fathers. As to morality skills, boys-mothers scored higher than boys-fathers, and girls-mothers scored higher than boys-fathers and girls-fathers. As to psychological control, boys-mothers and boys-fathers scored higher than girls-mothers and girls-fathers. Understanding-respect skills of mothers and fathers predicted well-being. Morality skills of mothers predicted well-being. Well-being predicted school adjustment.

Keywords : parenting attitude, parents, well-being, school adjustment